

## はじめての浄土真宗法話

テキスト:不要

浄土真宗の教えに初めて触れる方向けの、やさしい法話です。様々な先生が素朴な疑問から丁寧にお話しますので、どなたでもお気軽にご参加ください。経験者の方も、改めて基本に立ち返る良い機会になります。

## 存覚上人の法華問答に聞く

お釈迦さまがこの世にお生まれくださった目的は法華経を説くためか?無量寿経を説く為か?~出世本懐~

テキスト:浄土真宗聖典 註釈版 第二版

私たちは、職場や地域、あるいは家族の中で、宗派や宗教の異なる方々と出会い、共に生きていくことが当たり前の時代に生きています。そのような社会の中で、私たち念仏者は、他宗の方々とのように対話し、自らの信心を明らかにしていけばよいのでしょうか。この問いに大きな示唆を与えてくれるのが、本願寺第三代・覚如上人のご子息であり、南北朝時代の真宗教学を代表する学僧、存覚(ぞんかく)上人です。親鸞聖人のご在世中にはまだ大きな存在ではなかった日蓮宗が勢力を上げ、中には他宗に対して過激な行動をとる一部の日蓮宗徒も現れ、念仏者との間に緊張が生まれていたのです。存覚上人が著した『法華問答』は、そうした時代背景の中、日蓮聖人が掲げた『四箇格言』や『立正安国論(早勝問答)』の問いかけに、念仏者の立場から正面から答えようとした書物なのです。この連続講座では、阿部信幾先生を講師にお迎えし、『法華問答』を丁寧に読み解きながら、存覚上人の深い学識と思索の軌跡をたどります。

## テーマで学ぶ浄土真宗

論題から学ぶ、浄土真宗の豊かな世界

テキスト:浄土真宗聖典 註釈版 第二版

一人で本を読むだけでは得られない、み教えとの出会いがここにあります。この講座は、一つのテーマについて、集まった仲間と共にじっくりと耳を傾け、考える場です。案内役の先生が、私たちのために丁寧に言葉を選び、分かりやすく問いかけてくれます。それに応えるように、心の中でうなずいたり、新たな疑問が生まれたり…。そんな心の対話を重ねる中で、み教えはあなたにとって、かけがえない宝物になっていくでしょう。また、同じ関心を持つ仲間と共に学ぶ時間は、互いの支えとなり、大きな励みになります。安心して話せる場で、浄土真宗の豊かな世界を味わってみませんか。

## あなた一人の『御文章』連続講座

~〇〇の永遠の『御文章』~

テキスト:浄土真宗聖典 註釈版 第二版

光顔寺がお届けする、あなた一人の浄土真宗 連続シリーズのご案内です。「何となく聞いていたお話も、もっと深く理解したい」「人生の拠り所となる教えを、しっかりと学びたい」そのような方のために、様々な先生をお迎えし、浄土真宗の連続講義を開講いたします。第一弾として、蓮如上人のお手紙である『御文章』を丁寧に読み解きます。蓮如上人と対話しながら、浄土真宗の深遠な世界を共に学んでいきましょう。

## 旧光明寺ならびに光顔寺のご門徒様へ

※ ご門徒様ではない信徒様の法要・講座へのご参加は任意です。ご参加いただく場合は各法要・講座の所定の参加費をお納めください。

平素より、お念仏相続の尊いご縁にて両寺院の護持発展にご尽力を賜わり、ありがとうございます。今回はお問い合わせの多い、記帳場への金封等の出し方についてお伝えをいたします。

ご存じの方も多く、恐縮ではありますが、旧光明寺では、長い間の真宗寺院の重要法要が厳修されず、伝統の継承が断絶しております。光顔寺においても世代により世帯が異なるなど、世代間でお寺の運営や行事にまつわる事柄が継承されない場合が多く改めてここにお伝えさせていただきますものです。

その為、今回はご懇念・寺院収支にまつわることに恐縮ですが御蠟燭代(御香資)や御佛供米代の金封の記帳場への出し方について記載させていただきます。(御佛供米現物の場合はお米を入れた袋に名前の記載があるかご確認願います)

旧光明寺記帳場につきましては、御米の保管場所がなく、光顔寺側の保管場所も限界がある為、御佛供米は御佛供米代(お金)でお納めいただきますようお願い致します。

表

裏

御蠟燭代	これらでも可 (地域で呼び名が変わります) ・御蠟燭代 ・御香資	(例) 御蠟燭代 金壹万円也 御佛供米 米二升
山田	氏名はフルネームで お願いします	(例) ②御香資ならびに御佛供米代 金壹万円也 ③御蠟燭代 金伍阡円 御佛供米 金貳阡円

尚、当日どうしても参加できず、郵送される場合は記帳場会計上下記までお送りいただけますと助かります

旧光明寺門信徒様の場合

光顔寺門信徒様の場合

※光明寺所属を記載の上  
〒932-0057  
富山県小矢部市本町2-19  
光顔寺内光明寺宛

〒932-0057  
富山県小矢部市本町2-19  
光顔寺宛

## 難易度表記について

始めて浄土真宗のお話を聞きにお越しになる方から、友人をお誘いになる方など、参考までに難易度の目安をお示しするため作成しました。

レベル1 :【入門編】



どなたでもお気軽に・はじめての仏教・浄土真宗の基本の「き」から

レベル2 :【基本編】



もう一步、深く・教えをじっくり味わう・日々の暮らしと仏教の関わりを聞きたい方へ

レベル3 :【専門編】



じっくり探求したい方へ・専門的なテーマを学ぶ意欲のある方ならどなたでも